

第2回

京都建築賞

結果発表

■主催 (一社) 京都府建築士会

■後援 京都市・宇治市

■趣旨目的

京都府建築士会創立60周年を記念して、本賞を創設。
 本会会員による、京都の歴史的文脈を踏まえつつ創造性の高い
 建築作品を表彰し、その活動および業績を広く社会に伝えるこ
 とにより、京都および建築の継承・発展に資することを目的と
 する。

■審査委員会

委員長 岸 和郎 (京都大学大学院教授)
 委員 櫻井 潔 (㈱櫻井潔建築設計事務所・ETHNOS主宰)
 辻村 久信 (辻村久信デザイン事務所+㈱ムーンパ
 ランス代表 京都造形芸術大学教授)
 中村 義明 (中村外二工務店代表)
 文山 達昭 (京都市)
 堀木エリ子 (㈱堀木エリ子&アソシエイツ代表)

■応募作品数 12作品 (募集期間 平成26年2月1日～2月14日)

第2回 京都建築賞 審査総評

審査委員長 岸 和郎

本年度は京都府建築士会によって昨年度創設された賞である京都建築賞の二年目になります。その審査の経過についてご報告いたします。

資料の提出期限である2月14日時点で応募作品数は12点であり、残念ながら昨年度の21作品を下廻るということになりました。建築士会による様々な事前確認のプロセスを経た後、3月27日に一次審査委員会が開催されました。ここでは書類審査により現地審査作品を選ぶことが目的であり、様々な議論の結果、「ヤマサの家」、「レイモンド向日保育園」、「龍谷大学 龍谷ミュージアム」、「京都文化医療専門学校」、「御所西の町家」の5作品を現地審査作品として決定しました。

引き続き5月19日には、上記5作品の現地審査を行い、それぞれのクライアント、そして設計者のご協力により無事に審査を終了することができました。現地審査終了後、ただちに最終審査委員会を開催し、上記5作品について以下の結論を得ました。まず、現地審査を行った作品5点とも、十分に評価すべき水準にあることを審査員全員で確認し、引き続いて賞の議論に入りました。

最終的に、「龍谷大学 龍谷ミュージアム」を最優秀賞、「レイモンド向日保育園」、「御所西の町家」の2作品を奨励賞とすることに決定しました。

昨年度は最優秀賞については該当作無しとし、その理由として、本賞が京都建築賞であるため、最優秀賞については「京都」性の表現が十全に機能していること、その点を審査のクライテリアとするべきであることという点を審査委員会で確認しました。本年度の最優秀作とした「龍谷大学 龍谷ミュージアム」は審査委員の間に様々な議論を巻き起こしたものの、最優秀賞に値する作品であると審査委員全員の一致した結論を得ました。また奨励賞の2作品については、いずれも今少しの到達度と完成度を求めたいという意見は聞かれたものの、まずはその志を認めようという意見が大勢であり、奨励賞に推荐することとなりました。

以上で京都建築賞の審査過程とその結果の報告といたしますが、この京都建築賞が応募作品数の減少という厳しい状況にあることから、次年度からは自薦のみならず他薦という可能性も検討し、京都建築賞の存在をより広く社会に問うべきではないだろうか、という意見が審査委員から出ていた事を付記しておきます。京都建築賞のさらなる発展に期待したいというのが審査を担当した委員の総意であり、次年度以降の応募作品への期待をここに記して、本年度の審査報告としたいと思います。

第2回 京都建築賞 応募作品一覧

作品名	設計者	会社名
御所東の家 (竹内邸新築工事)	内藤 郁子	一級建築士事務所 アトリエむべ
ヤマサの家	荒井 圭一郎	Atelier 樓咲舎
同志社大学 良心館	笹村 欽也	㈱東畑建築事務所
レイモンド向日保育園	広谷 純弘・石田 有作	㈱アーキヴィジョン広谷スタジオ
立命館大学 京都衣笠体育館	永井 務	㈱竹中工務店
がくさい病院	濱野 拓微・星野 大道・和田 彦丸	鹿島建設(株)
龍谷大学 龍谷ミュージアム	赤木 隆・下坂 浩和	㈱日建設計
御所西の町家	森田 一弥	森田一弥建築設計事務所
黄檗山萬福寺第二文華殿	足立 裕己・森田 昌宏	㈱竹中工務店
京都文化医療専門学校	大平 滋彦	㈱竹中工務店大阪本店設計部
通り土間の家	岸 研一	岸研一建築設計事務所一級建築士事務所
House of Kyoto	満田 衛資	一級建築士事務所 満田衛資構造計画研究所

【講評】

歴史的文脈を踏まえつつ創造性の高い建築作品を表彰する事で、京都および建築の継承・発展に資する目的とする。

情緒と機能性、その優雅さと合理性の建築。

「街に開かれたミュージアム」

龍谷大学 龍谷ミュージアム

龍谷大学創立370周年事業のひとつとして仏教に関する総合博物館である。

堀川通りと油小路にはさまれた敷地で、西側のファサードは世界文化遺産の西本願寺の対峙し、東側は油小路の小路に沿って門前町が広がっている。

周辺の民家の軒先の高さやスケールに配慮した低い軒先が水平ラインが1階内部のルーバー天井と繋がって、陽光の落ちる中庭を介して西側の油小路まで開放している。あたかも洛中の路地の様に風が通り抜ける様な空間になり、地域のオープンスペースとなつて開かれている。またこの中庭は景観条例の範囲内で最大のボリュームを確保するために設けられた地下のエントランスホールへの明かり通りの役割と、導入を想起させる役割を持つ。

館内の縦導線であるエレベーターを取り囲む階段は、エレベーター外壁がダブルスキンの光壁になっており、光のグラデーションに導かれ螺旋状に登っていくシーケンスは期待を増幅させ、最終的に上階の映像展示室では、切り取られた借景として西本願寺を取り込む操作はまさにドラマティックである。

最も特徴的な西側のファサードを構成する約4000本のセラミックルーバーは、京町家の簾を彷彿とさせ、そのなめらかな曲線は、あたかも風の動きをはらんで揺らめく一瞬を捉えたが如く、自然の動きを想像させる情緒がある。加えて、2階3階の展示室の外壁を西日から守り、館内温度上昇を防ぐ役割を持っている。

景観に配慮し共鳴した情緒的な意匠と現代的な機能性の側面を持ち合わせたデザイン、無垢な素材感と技術を伴う丁寧な詳細へのこだわりは、その優雅さと合理性を持つ京都のデザインを体現している。正に本建築賞の「歴史的文脈をふまえた創造性の高い建築作品」に相応するものといえよう。(辻村久信)

最優秀賞

龍谷大学 龍谷ミュージアム

設計者：赤木 隆・下坂浩和
(株)日建設計

所在地／京都市下京区
竣工／2010年7月
敷地面積／1,671.69㎡
建築面積／1,342.85㎡
延床面積／4,412.65㎡
構造規模／SRC、RC、S造
地上3階 地下1階建



奨励賞 レイモンド向日保育園

設計者：広谷純弘・石田有作
(株)アーキヴィジョン広谷スタジオ

所在地／京都府向日市
竣工／2013年3月
敷地面積／2,147.74㎡ 建築面積／1,113.03㎡
延床面積／1,207.96㎡ 構造規模／鉄骨造 地上2階建



【講評】 住宅地域に建つ多くの保育園はお隣からの視線や騒音が課題となるケースが多い。その問題に対して保育室を平屋とし隣地側の開口を限定し、園庭を屋上にあげて壁を立ち上げ周辺への音と視線を抑え、保育室にはトップライトで光を取り入れながら、園庭と保育室の関係を創ろうとしたこの提案は、新しい園舎の可能性を示している。このシステムはまさに中庭により採光換気を図る京町家のくふうに通じるものがあり興味深い。

トップライト下のスペースは「空の家」と呼ばれ、それぞれ形や向き・色が変わっており、子供たちにとってはまさに隠れ家。午睡時は空の家でというのは興味深い。屋上に散りばめられた空の家の屋根はまるで子供たちの小さな村のようだ。

視線を遮る屋上の壁の閉鎖感や外部開口を押さえた保育室の圧迫感、無機質な正面駐車場と内部の様子を感じさせないルーバーのファサードなど、残念なところもあったが、その意欲的な姿勢に拍手を送りたい。

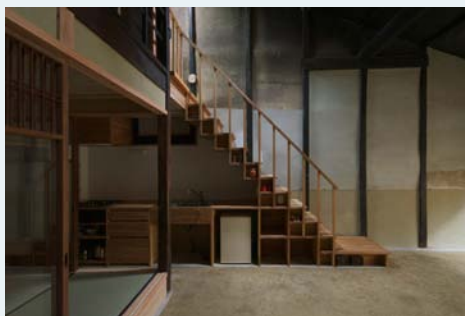
(櫻井 潔)



奨励賞 御所西の町家

設計者：森田一弥
森田一弥建築設計事務所

所在地／京都市上京区
竣工／2013年11月
敷地面積／79.96㎡ 建築面積／64.64㎡
延床面積／81.48㎡ 構造規模／木造 地上2階建



【講評】 京都市都心部のトンネル路地の奥に位置する、築100年ほどの町家の改修である。路地奥の町家改修は、近年、ブームの感があるが、この作品を他から際立たせているのは内部における空間・時間の扱い方にある。2階に持ち上げられた茶室兼書斎、その下に広がる敢えて奥側に設けられた大胆な土間空間、そしてさらにその奥の小さいながらも丁寧に作り込まれた庭へと繋がるシークエンス。新旧を安易に対比させるのではなく、むしろ反転させるかのような素材・工法の選び方。それらによって、日本建築の特質のひとつである浮遊感が、設計者のいう「多元的」な時間性あるいは時間の非同定性のもと、独自に表現されている。ただし、その一方で、町家とりわけトンネル路地奥のそれは防災面での脆弱性を事実として抱えており、そこはどう向き合うかが今日の課題としてある。そうした点についても、独自の視線が及んでいれば、この作品をさらに秀でたものにしていただこう。

(文山達昭)

